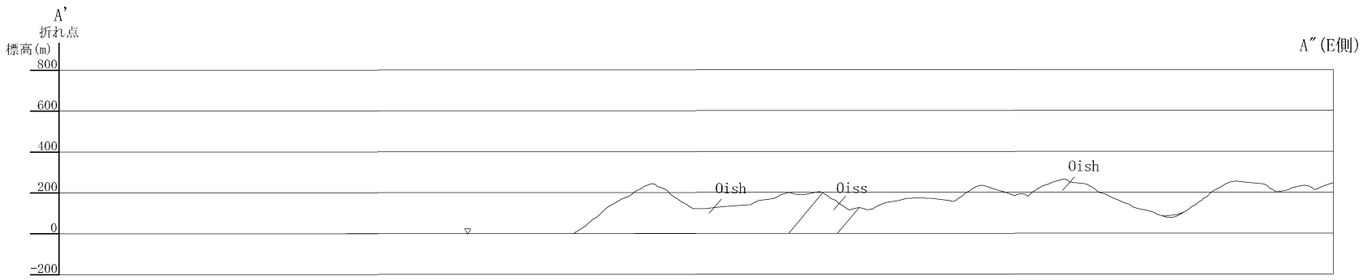
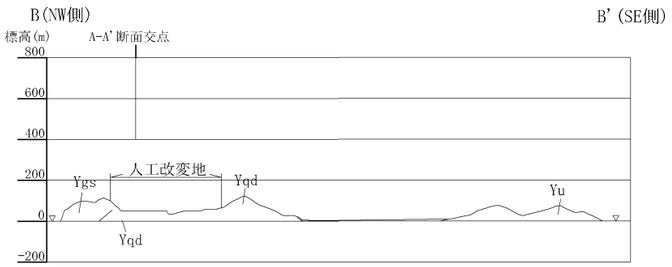


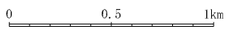
大飯 A-A'断面



大飯A'-A"断面



大飯 B-B'断面



地質凡例

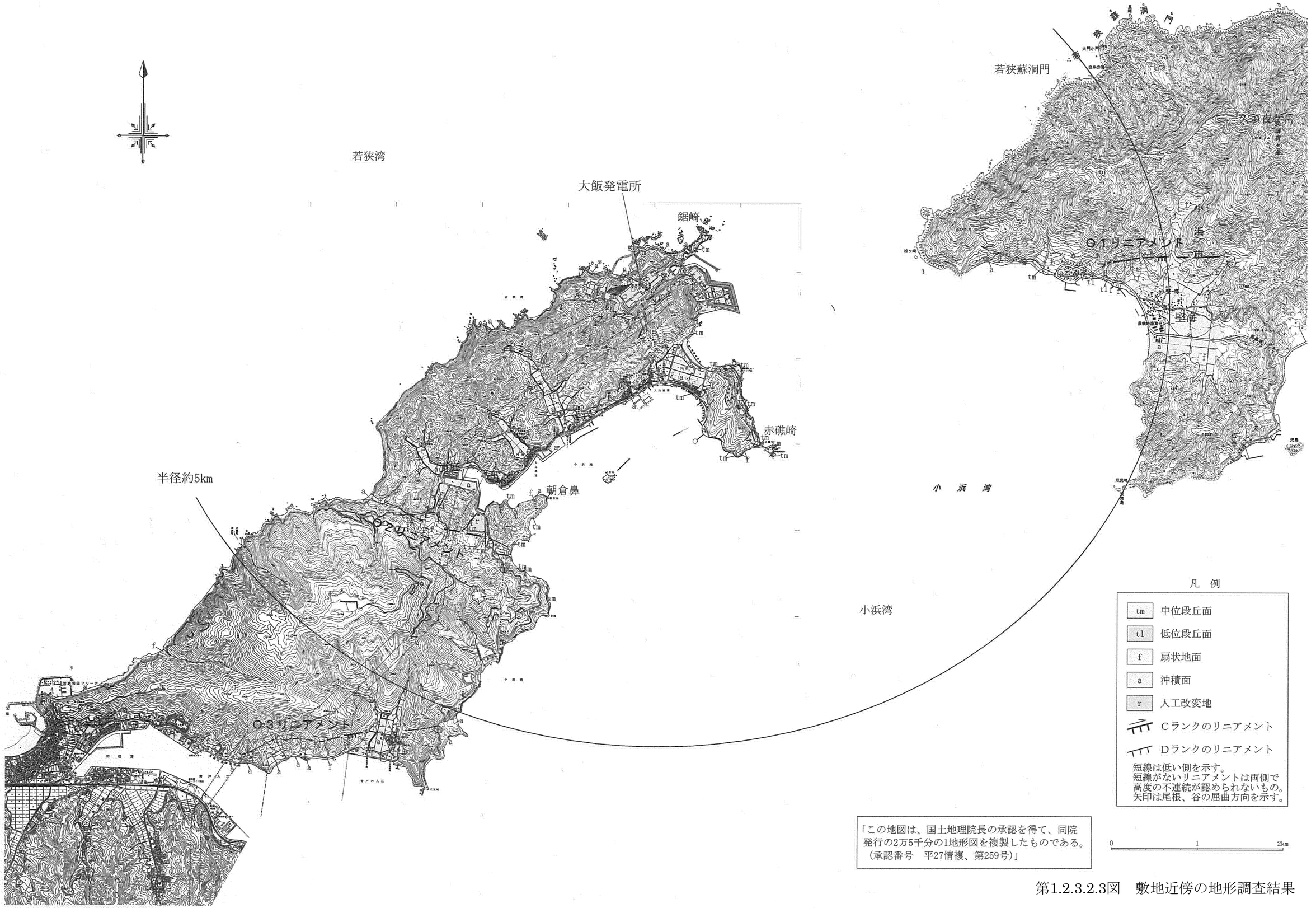
地質年代			記号	地層名等	主要構成地層
新生代	第四紀	完新世	r	人工改変地	
			a	沖積層	礫、砂、シルト、粘土
			f	扇状地堆積物	礫、砂、シルト
		更新世	tl	低位段丘堆積物	礫、砂、シルト
			tm	中位段丘堆積物	礫、砂、シルト
中生代	古第三紀～白亜紀		Gr	蘇洞門花崗岩類	黒雲母花崗岩
古生代	ジュラ紀～ペルム紀		Ss	周山ｺﾝﾌﾟﾚｯｸｽ(T1)	砂岩
			Sx		泥質混在岩及び頁岩
			Sc		チャート
			Sg		緑色岩類
	ペルム紀		Hkss	氷上層(UT1ｺﾝﾌﾟﾚｯｸｽ)	砂岩
			Hksh		頁岩
			Oiss	大飯層(UT2ｺﾝﾌﾟﾚｯｸｽ)	砂岩
			Oish		頁岩
			Oich		チャート
	ペルム紀～		Ysh	夜久野ｵﾌｨｵﾗｲﾄ(大島層)	頁岩
			Yfs	夜久野ｵﾌｨｵﾗｲﾄ	珪長岩
			Yqd		細粒石英閃緑岩
			Ygs		緑色岩類
			Ymg		変斑れい岩
			Yu		超苦鉄質岩

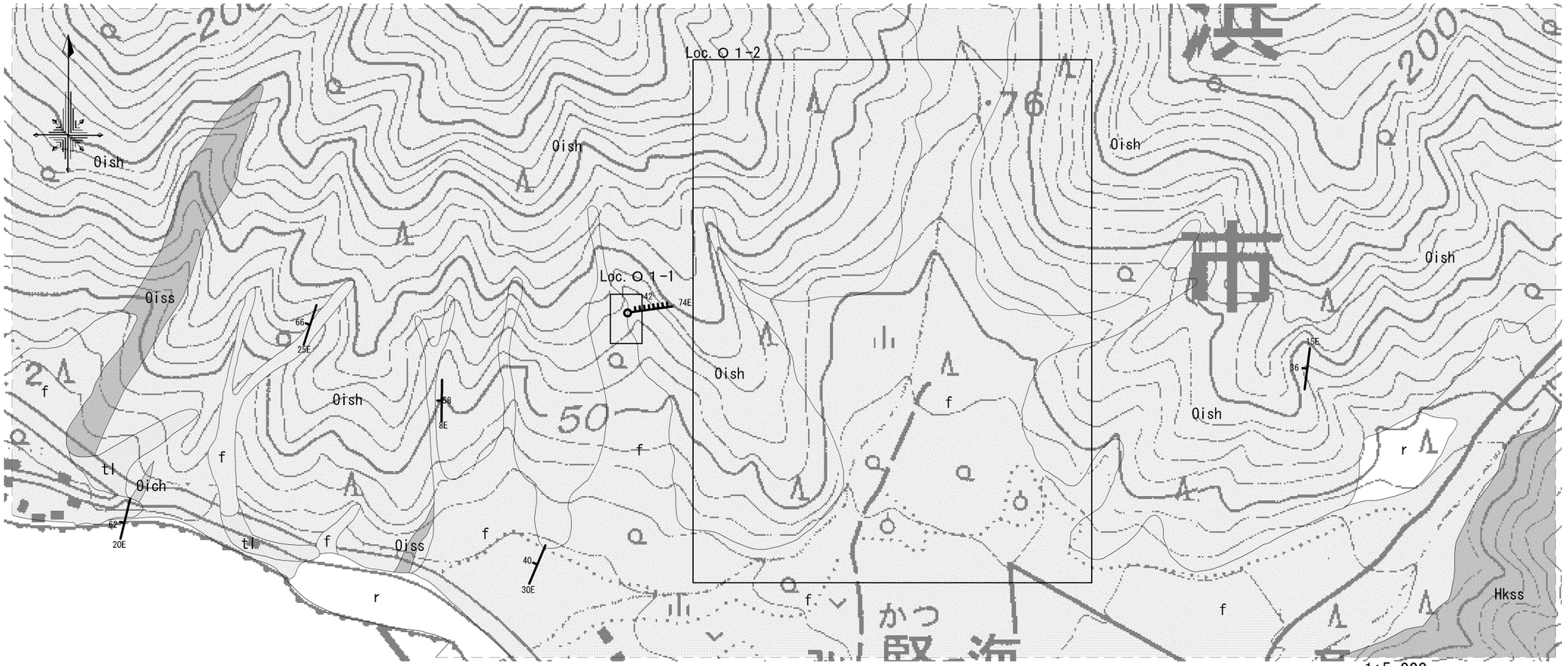
地質境界

断　層

断面位置は第1.2.3.2.1図に示す。

第1.2.3.2.2図　敷地近傍の地質断面図


若狭湾
大飯発電所
鋸崎
赤礁崎
朝倉鼻
半径約5km
O2リニアメント
O3リニアメント
若狭湾
若狭湾
若狭湾



「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。（承認番号　平27情複、第259号）

凡　例

第四紀	完新世	人工改変地	r	
		新期扇状地堆積物	f	礫、砂及び泥
	更新世	低位段丘堆積物	tl	礫、砂及び泥
ペルム紀中～後期	超丹波帯	氷上層	Hkss	砂岩
		大飯層	Oiss	砂岩
			Oish	頁岩
			Oich	チャート

15E 20　断層面の走向傾斜（偏角未補正）

15E 20　層理面の走向傾斜（偏角未補正）

Loc　詳細調査位置（ルートマップ、スケッチ等）

表示範囲

第1.2.3.2.4図　Ｏ１リニアメント周辺の地質図



地形図には5千分の1大飯町 其ノ1、其ノ2(平成8年)を使用

凡　例

第四紀	完新世	人工改変地	r	
		沖積層	a	礫、砂及び泥
		扇状地堆積物	f	礫、砂及び泥
	更新世	低位段丘堆積物	tl	礫、砂及び泥
		中位段丘堆積物	tm	礫、砂及び泥
ペルム紀	舞鶴帯	大島層	Ysh	頁岩
		夜久野オフィオライト	Ygs	緑色岩類
			Ymg	変斑れい岩
			Yu	超苦鉄質岩

破砕帯（破砕された岩塊が混在）
断層（●●● ：伏在）
断層面の走向傾斜（偏角未補正）
層理面の走向傾斜（偏角未補正）
Loc 詳細調査位置（ルートマップ、スケッチ等）
表示範囲

第1.2.3.2.5図　Ｏ２リニアメント周辺の地質図



第1.2.3.2.6図　O３リニアメント周辺の地質図

記号凡例

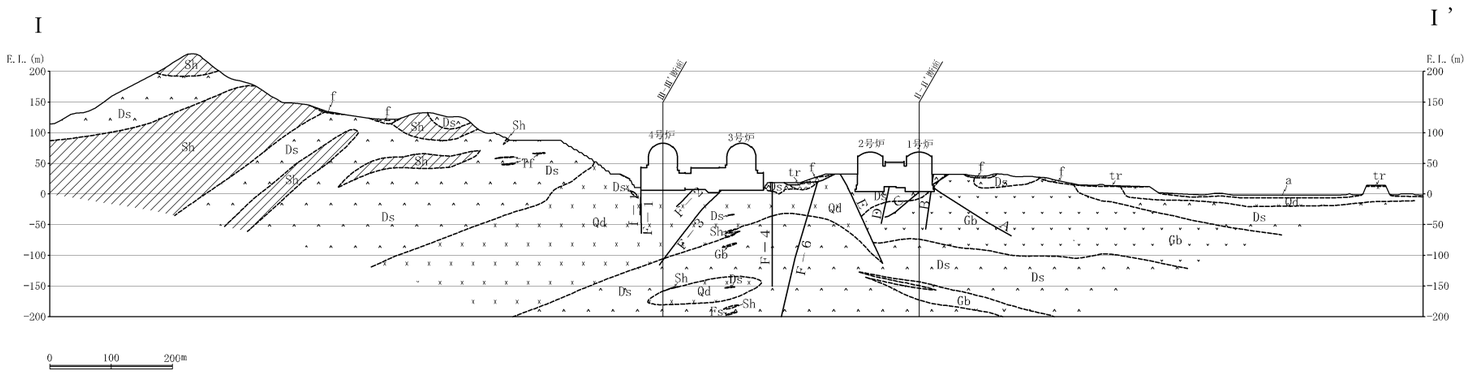
70 80E 地層（層理面）の走向傾斜	地質境界線
70 80E 面構造（片理面など）の走向傾斜	I I' 断面位置
70 80E 節理面の走向傾斜	
70 80E 断層面の走向傾斜	

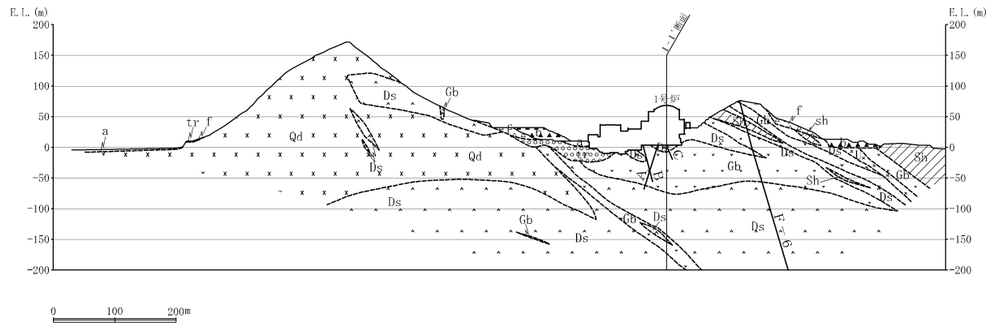
地　質　凡　例

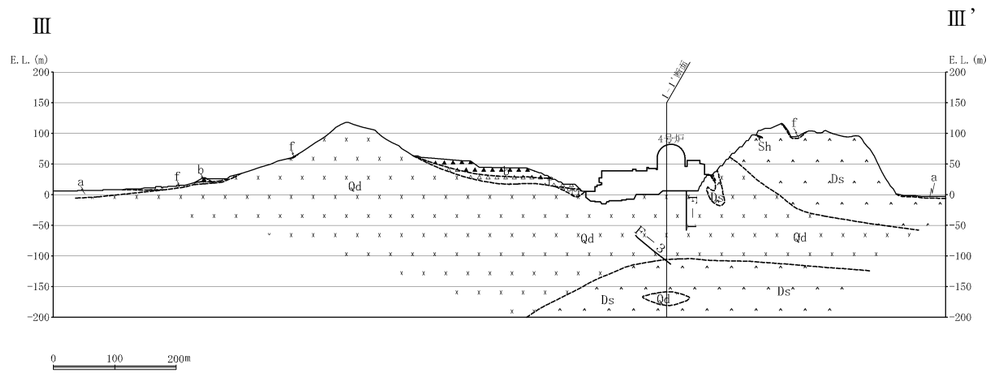
地質時代			記号	地質名等	主要構成地層
新生代	第四紀	完新世	r	人工改変地	
			a	沖積層	礫・砂・シルト・粘土
			f	崖錐堆積物 新期扇状地堆積物	礫・砂・シルト
		更新世	of	古期崖錐堆積物 古期扇状地堆積物	礫・砂・シルト
			tm	中位段丘堆積物	礫・砂・シルト
古生代	ペルム紀	中期～後期	Sh	夜久野オフィオライト（大島層）	頁岩
			Ds	夜久野オフィオライト	輝緑岩
			Gb		斑れい岩
			Qd		細粒石英閃緑岩
			U		超苦鉄質岩

0　250　500m

第1.2.3.3.1図　敷地の地質図







凡　例

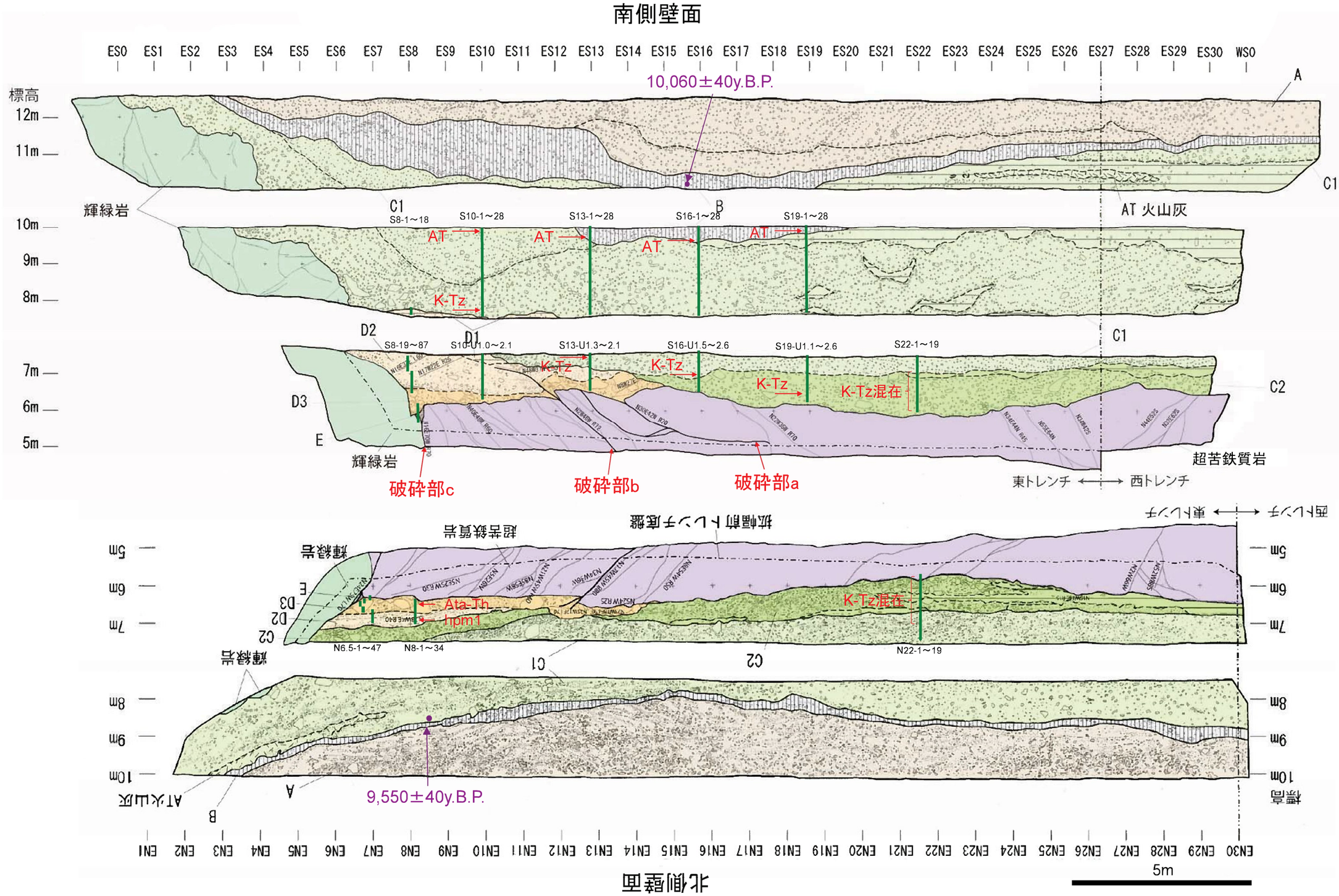
- b　盛土
- a　沖積層
- f　崖錐堆積物 新期扇状地堆積物
- tr　段丘堆積物
- Sh　頁岩
- Qd　細粒石英閃緑岩
- Ds　輝緑岩
- Gb　斑れい岩
- Fs　珪長岩
- U　超苦鉄質岩
- Tf　塩基性凝灰岩
- ---------- 地質境界線
- F－1 / A　破砕帯

※地質平面図で人工改変地(r)としている部分は、実際に分布する地質で表現した。

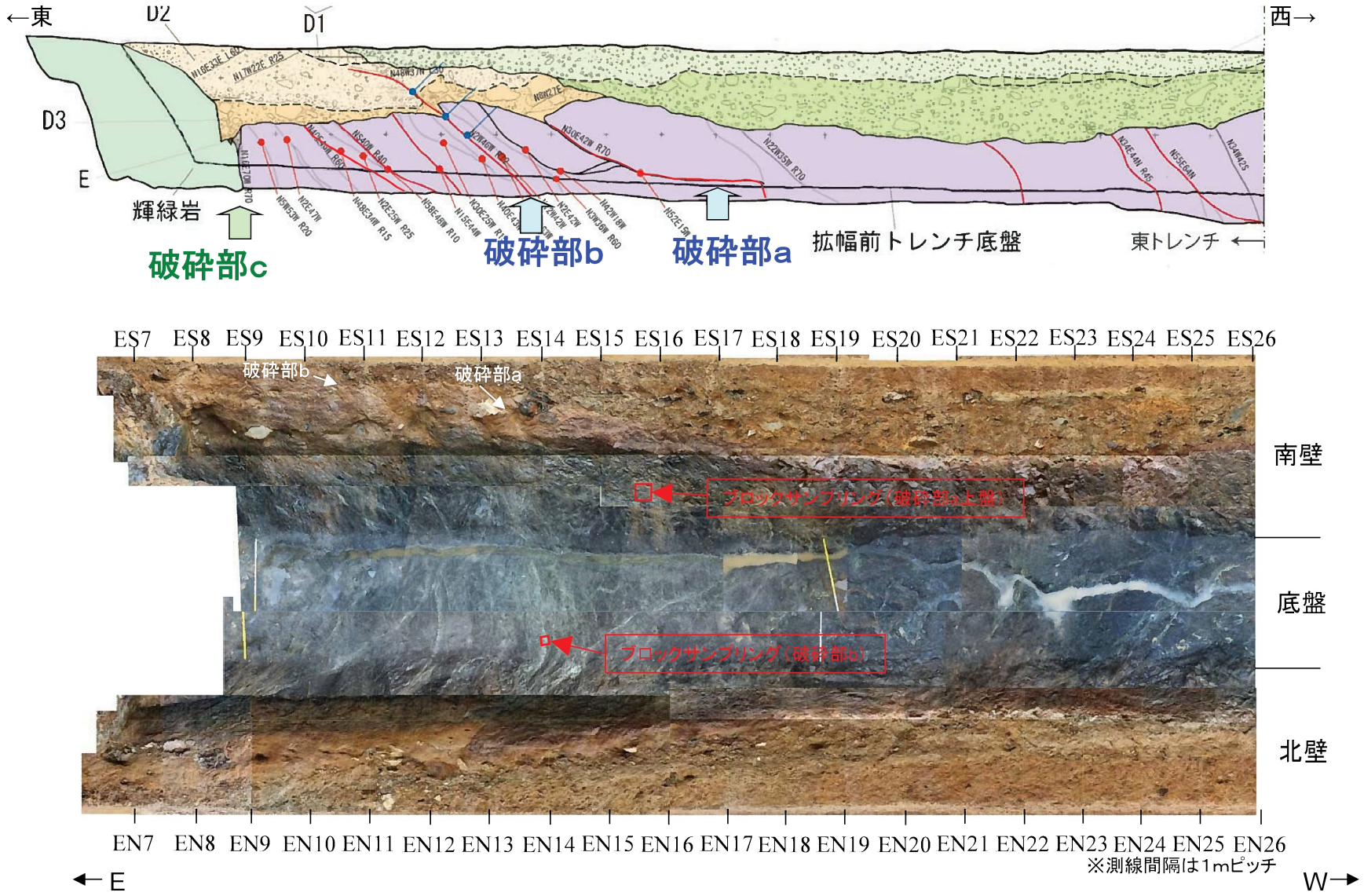
※断面図作成位置は第1.2.3.3.1図に示す。

第1.2.3.3.2図　敷地の地質断面図

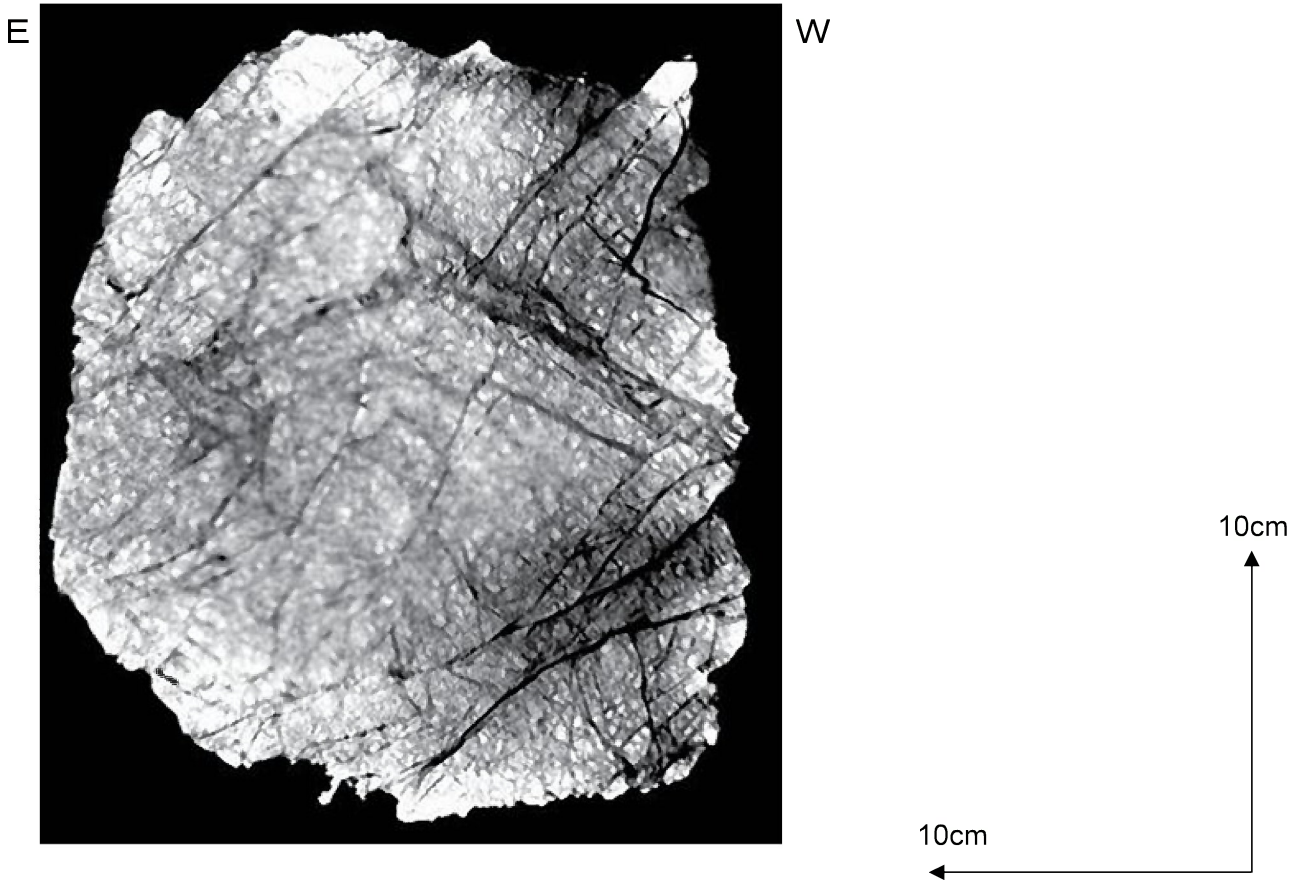
南側壁面



第1.2.3.3.3図　台場浜トレンチ壁面スケッチ（トレンチ東部）

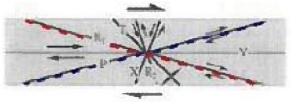


第1.2.3.3.4図　台場浜トレンチ破砕部a,b ブロックサンプリング位置



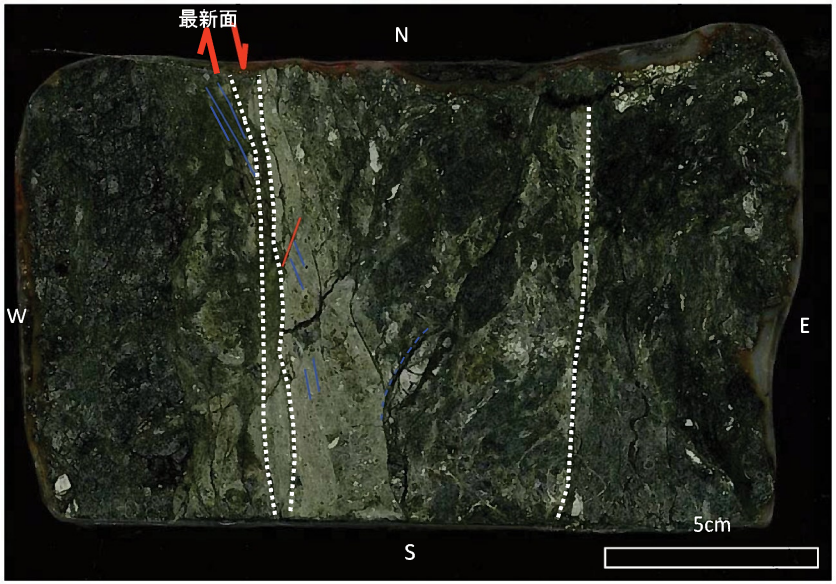
破砕部aの上盤のブロックサンプリングの結果は、全体として無構造の角礫状を呈し、明瞭な複合面構造は認められない。

第1.2.3.3.5図　台場浜トレンチ破砕部a 付近CT 画像解析結果



せん断センスを示す複合面構造
（狩野・村田、1998）[20]

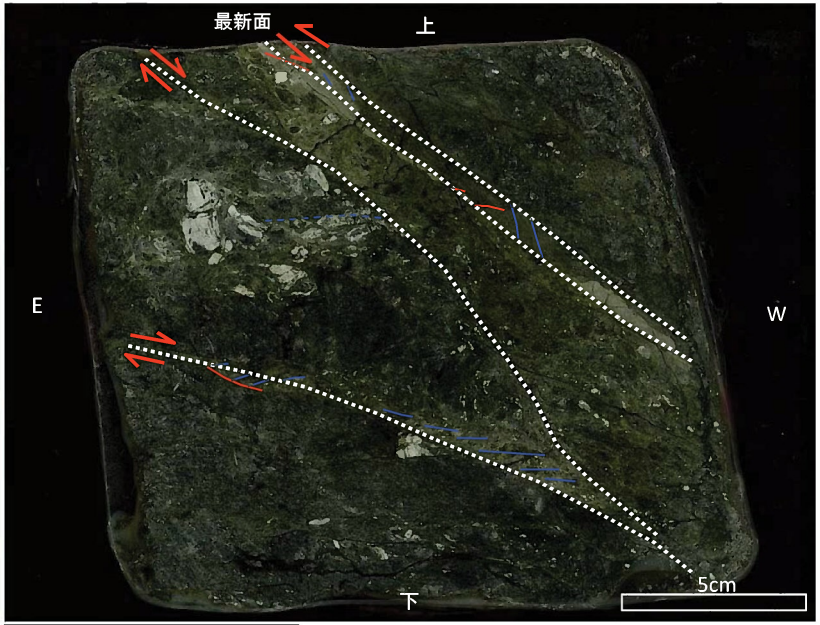
研磨片（横ずれ成分観察用）



Y面
R1面
P面
引きずり構造

研磨片観察結果
・主せん断面近傍で右横ずれ成分のR1面が認められる。
・せん断面周辺の引きずり構造により、左横ずれ成分を伴うと考えられる。

研磨片（縦ずれ成分観察用）



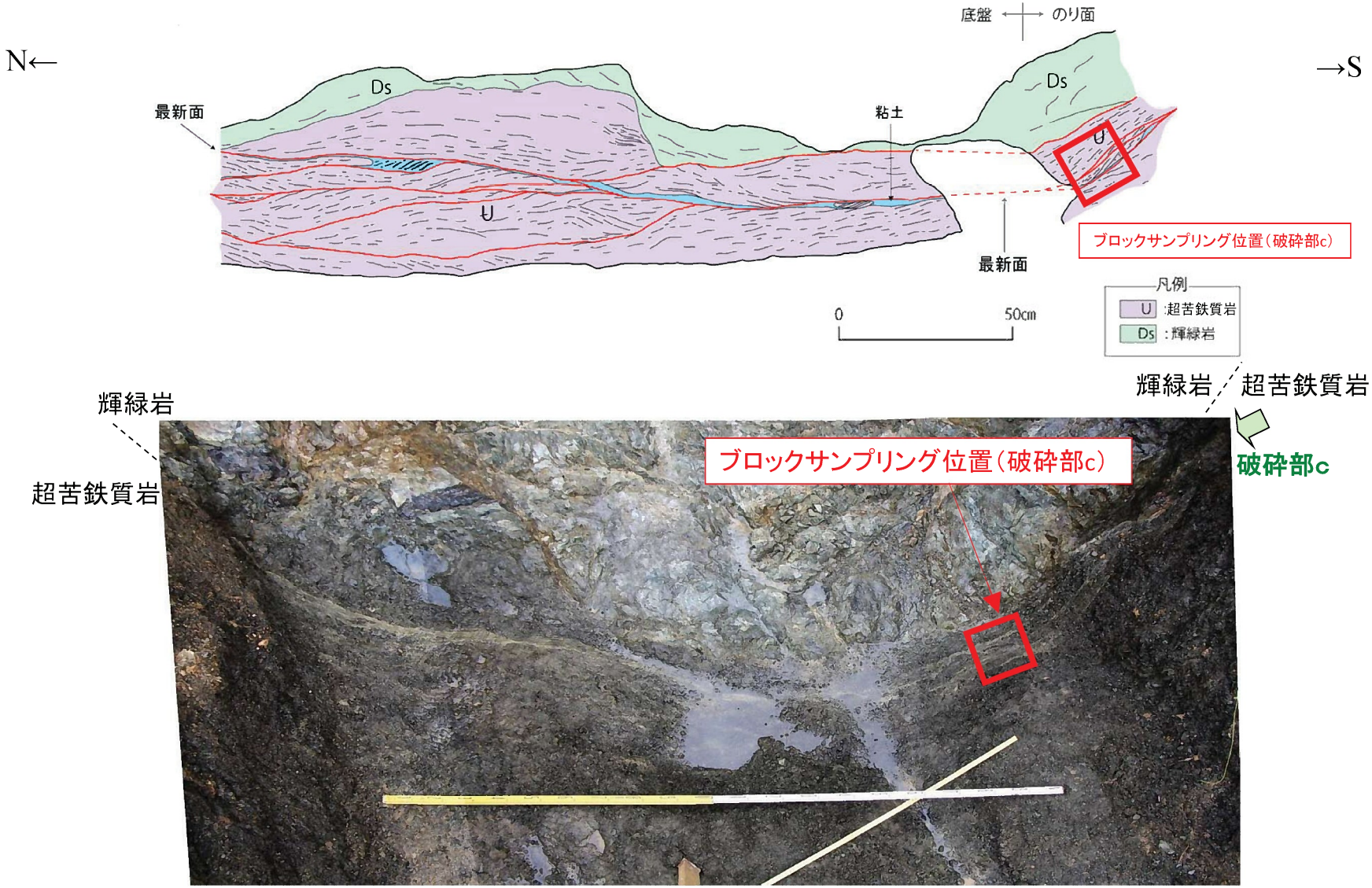
Y面
R1面
P面
引きずり構造

研磨片観察結果
・主せん断面近傍の複合面構造により、逆断層成分を伴うと考えられる。
・せん断面周辺では正断層成分を示す引きずり構造が認められる。

第1.2.3.3.6図　台場浜トレンチ破砕部b 研磨片観察結果



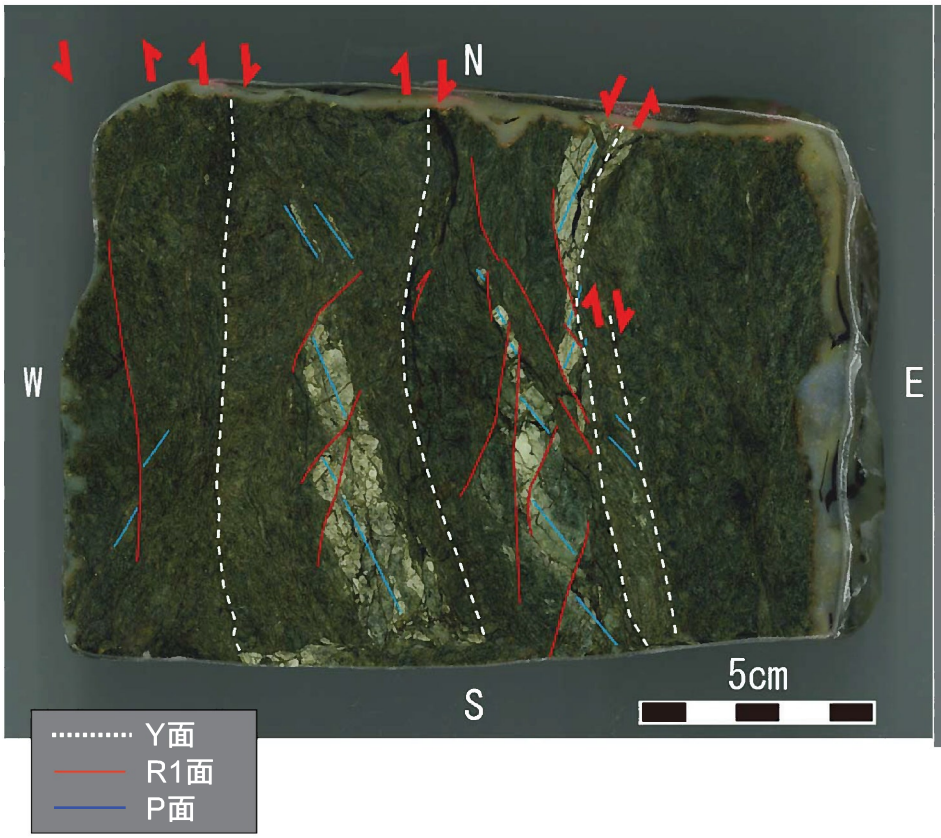
第1.2.3.3.7図　台場浜トレンチ東端付近写真



輝緑岩と超苦鉄質岩の境界は凹凸を有し、その分布は一部を除き破砕部と一致しない。
この地質境界付近の超苦鉄質岩中に湾曲した数条のすべり面（破砕部ｃ）が認められる。

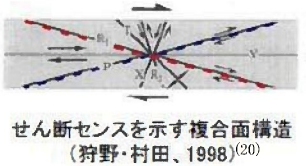
第1.2.3.3.8図　台場浜トレンチ東端付近底盤スケッチ

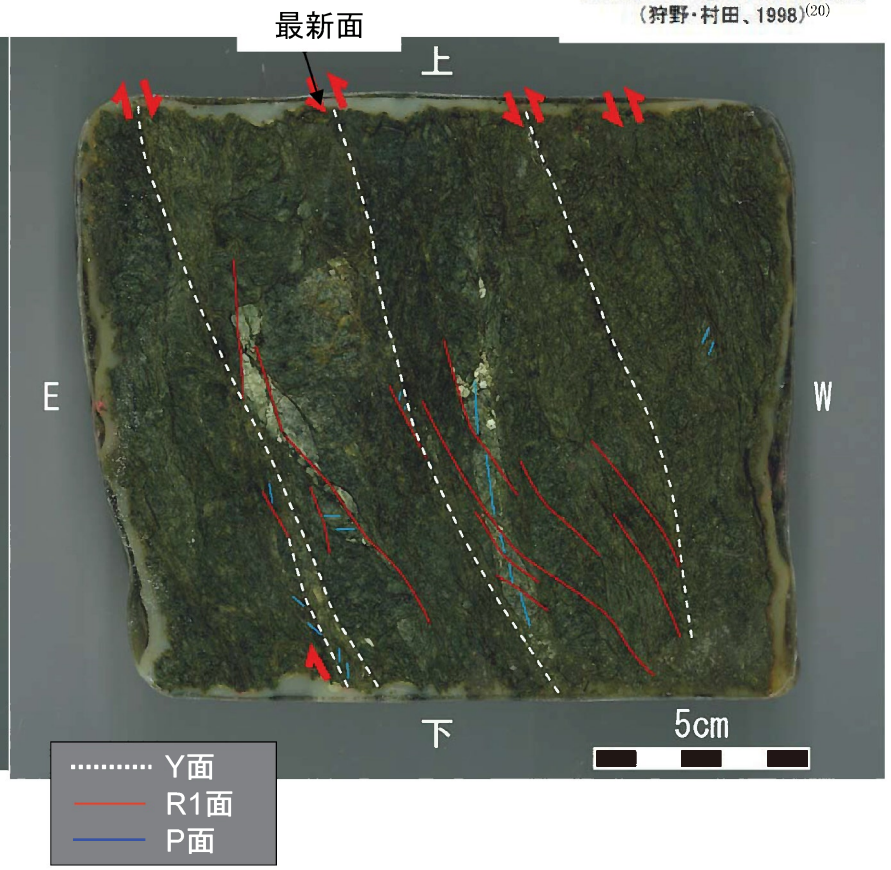
研磨片（横ずれ成分観察用）



研磨片観察結果
・黒緑色を呈し、角礫状に破砕された蛇紋岩化した超苦鉄質岩類からなり、一部に破砕された白緑色脈を挟む。
・P面及びR1面がみられ、右横ずれセンスを示す部分を主体とし、左横ずれセンスを示す部分も認められる。縦ずれ成分観察用研磨片中の最新面に対応するY面（図中央）沿いには右横ずれセンスを示すR1面が認められる。

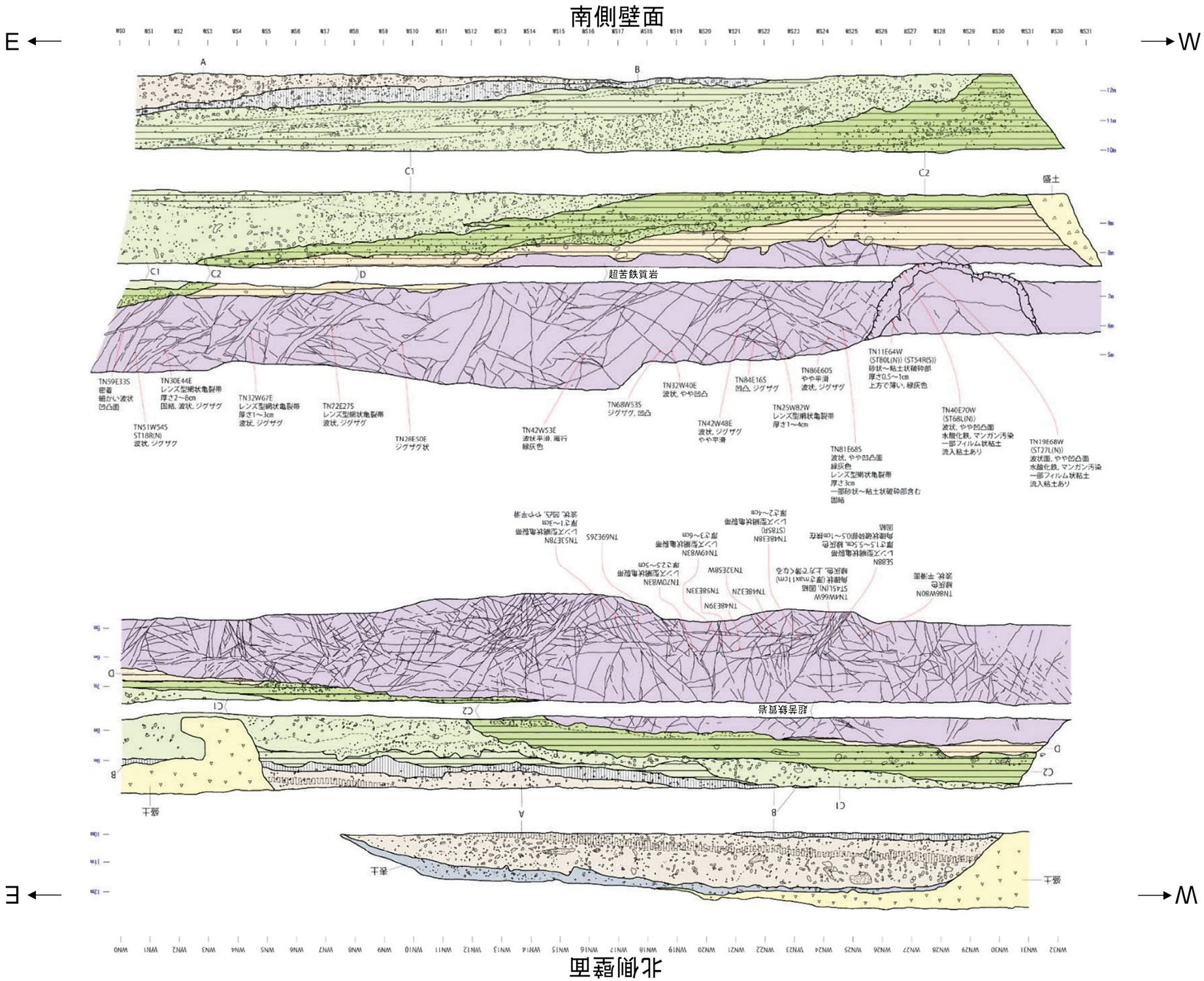
研磨片（縦ずれ成分観察用）



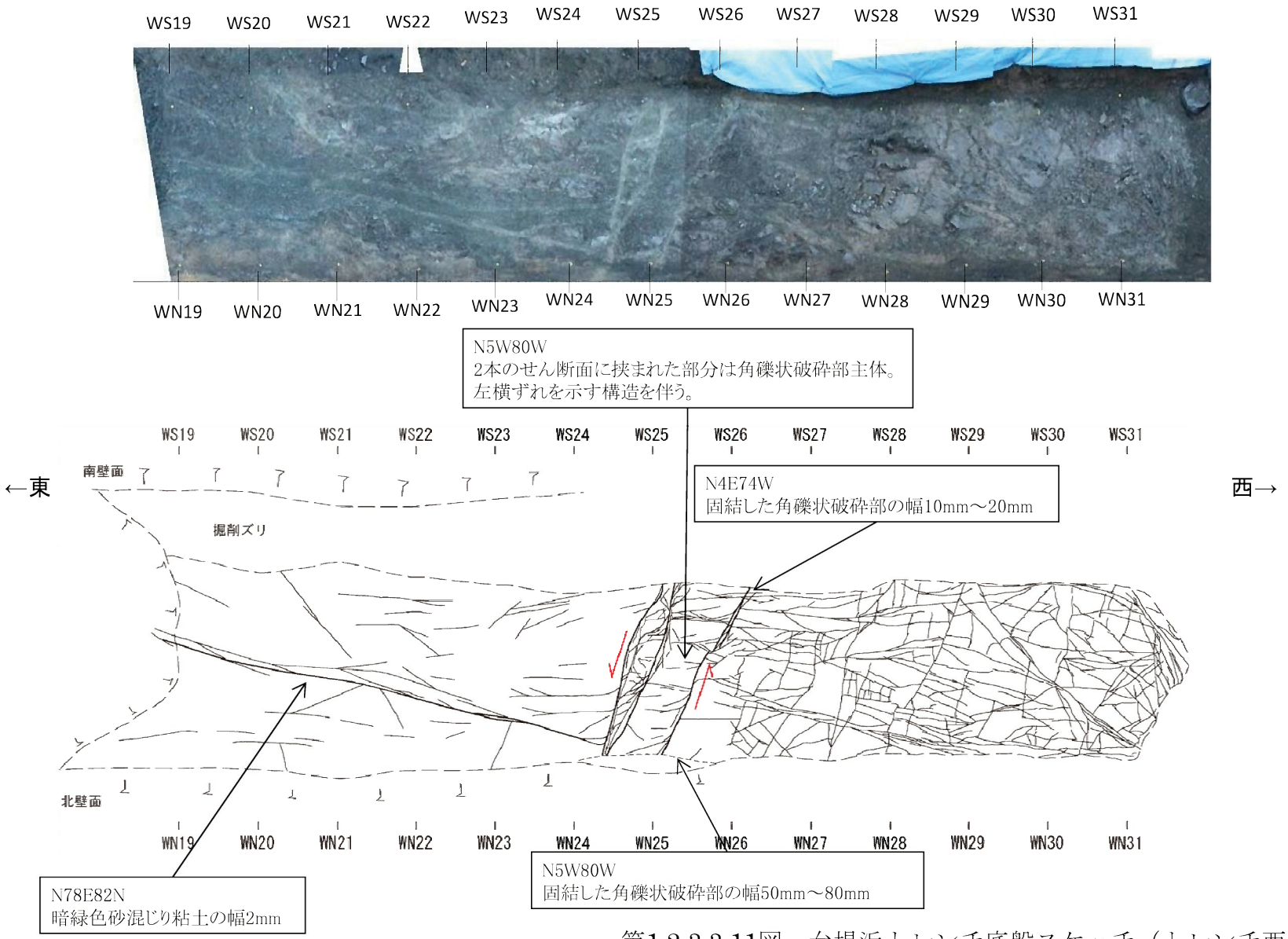


研磨片観察結果
・黒緑色を呈し、角礫状に破砕された蛇紋岩化した超苦鉄質岩類からなり、一部に破砕された白緑色脈を挟む。
・P面及びR1面がみられ、逆断層センスを示す部分を主体とし、正断層センスを示す部分も認められる。最新面に沿っては逆断層センスが認められる。

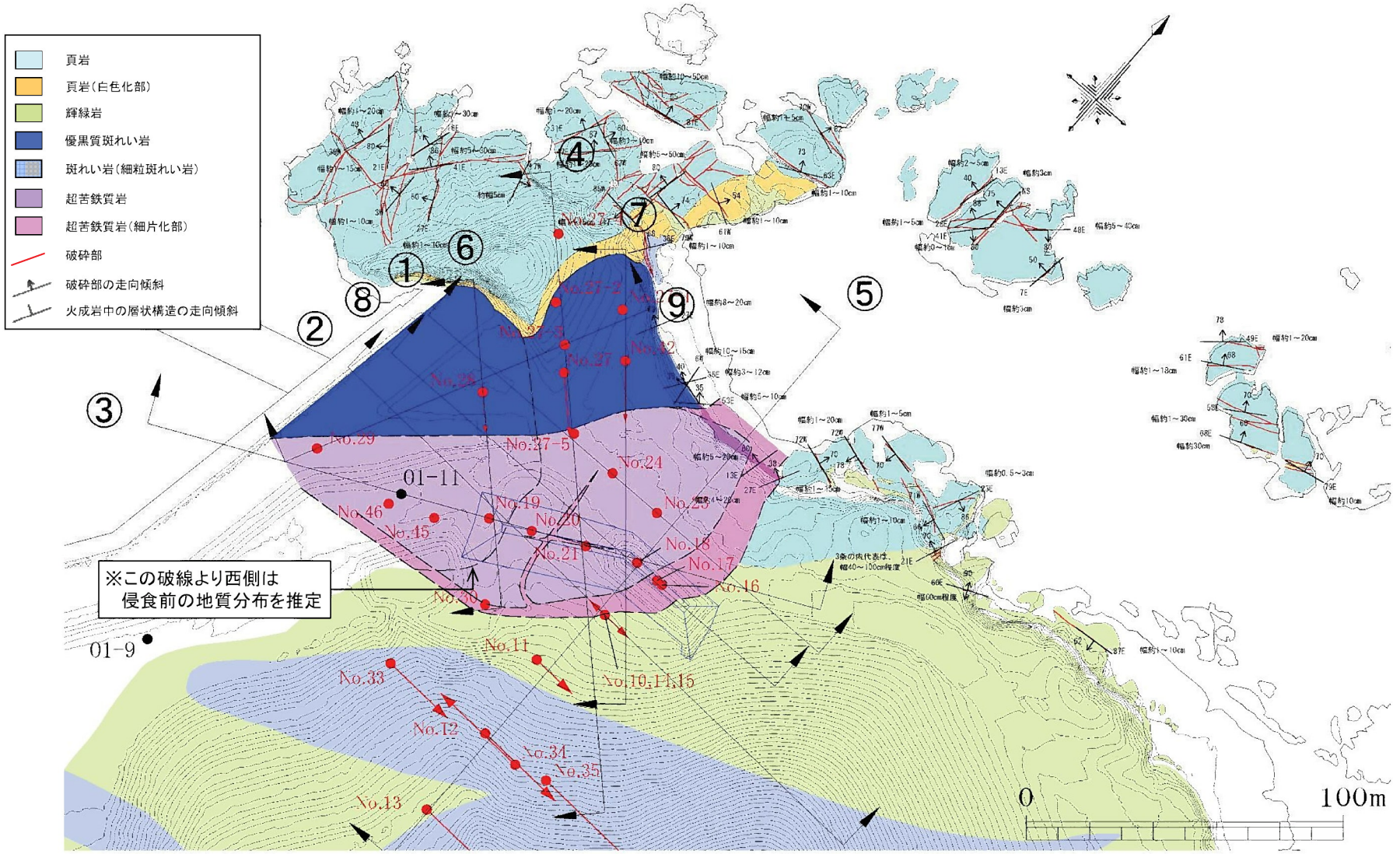
第1.2.3.3.9図　台場浜トレンチ破砕部c 研磨片観察結果



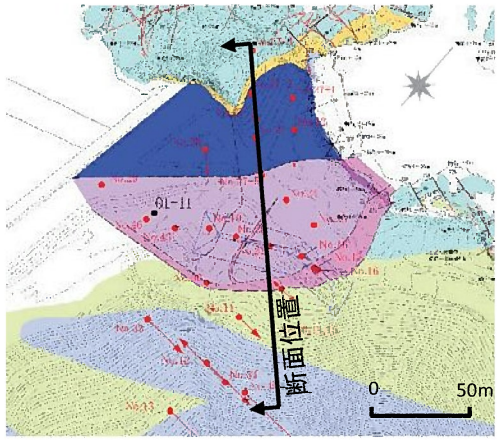
第1.2.3.3.10図　台場浜トレンチ壁面スケッチ（トレンチ西部）

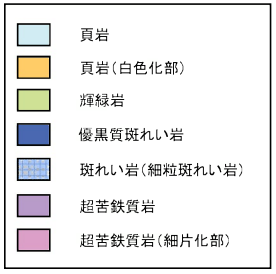


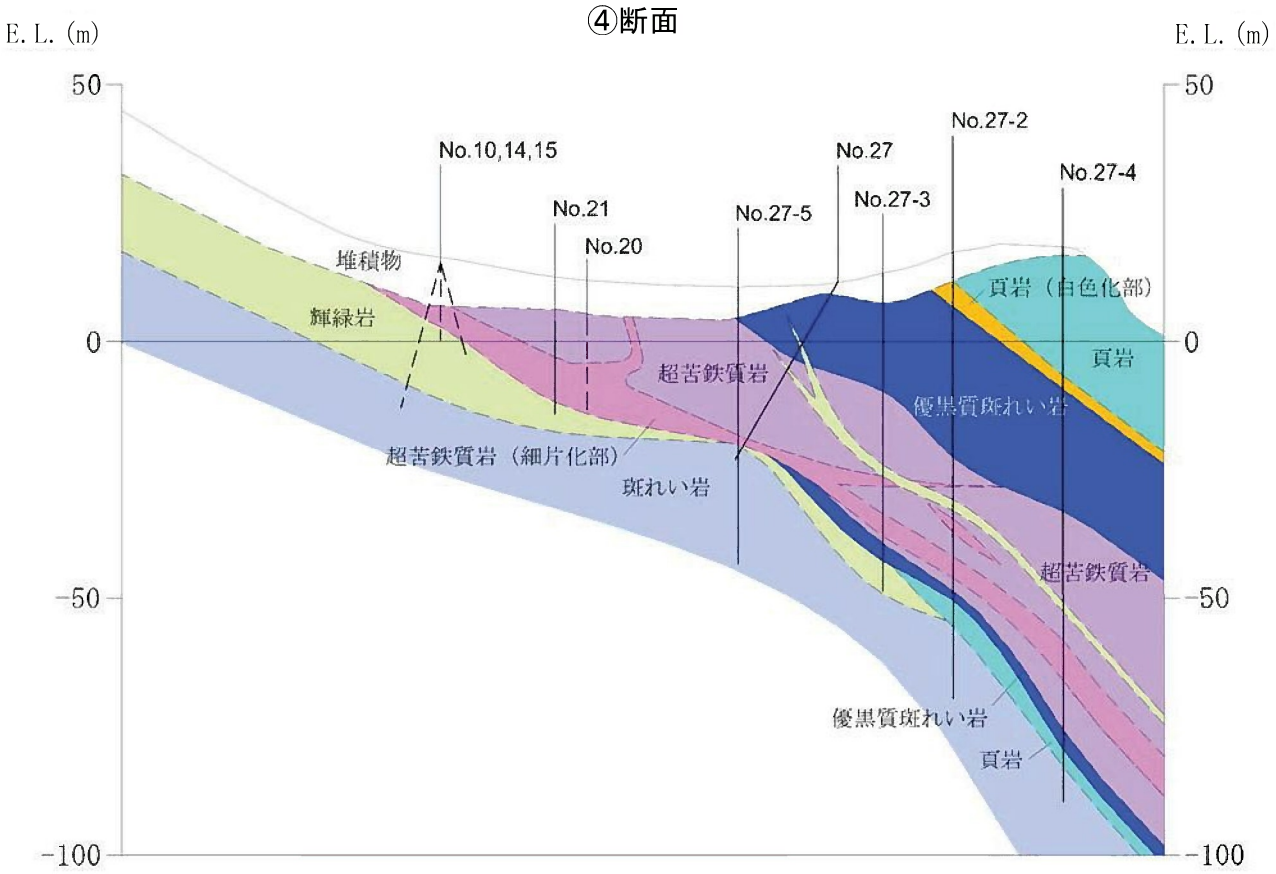
第1.2.3.3.11図　台場浜トレンチ底盤スケッチ（トレンチ西部）



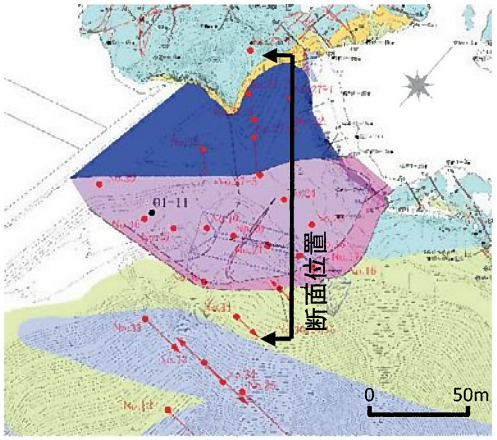
第1.2.3.3.12図　台場浜付近　地質分布図

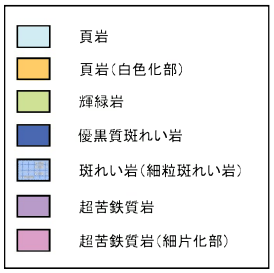


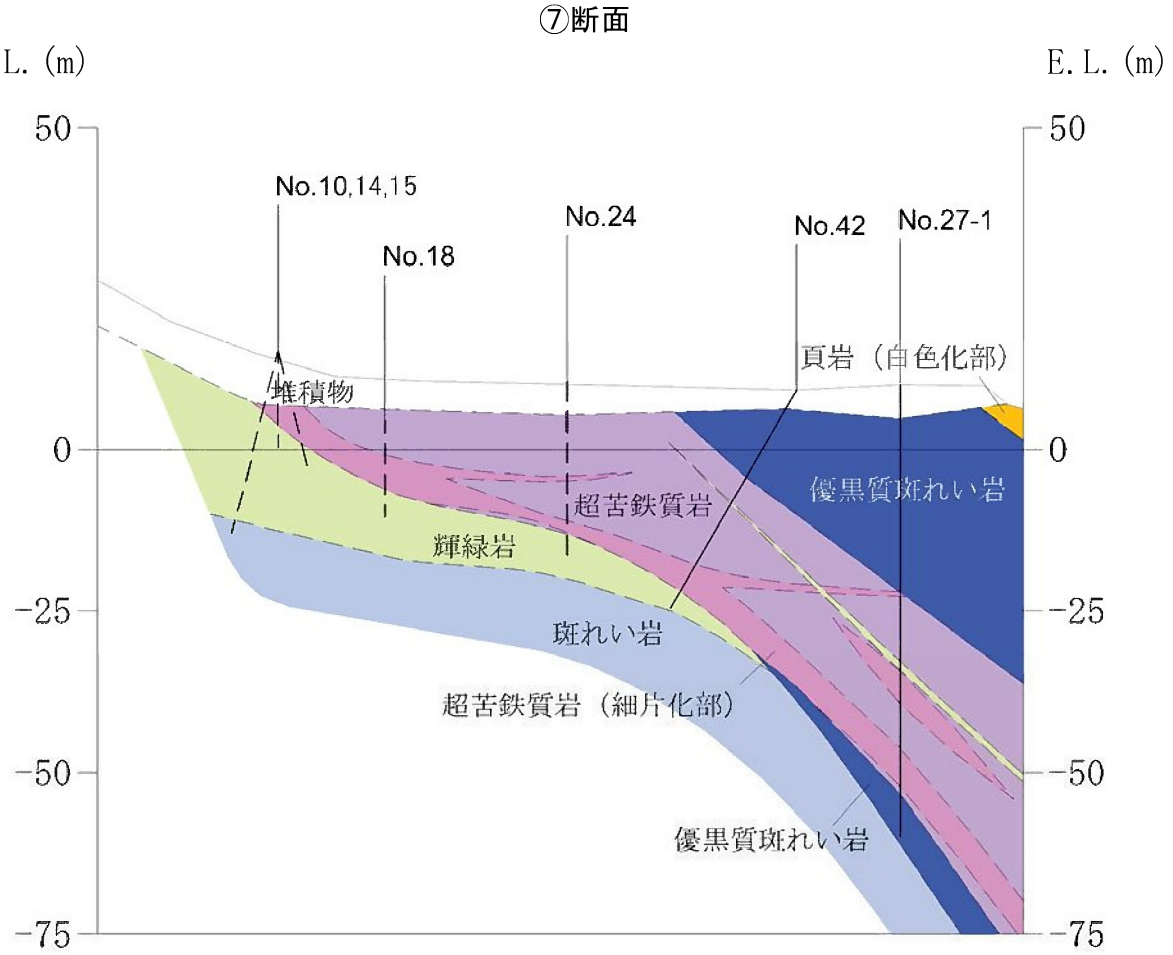




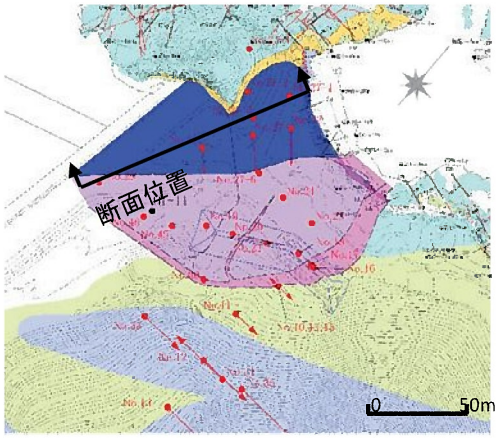
第1.2.3.3.13図(1)　台場浜付近　地質断面図（④断面）

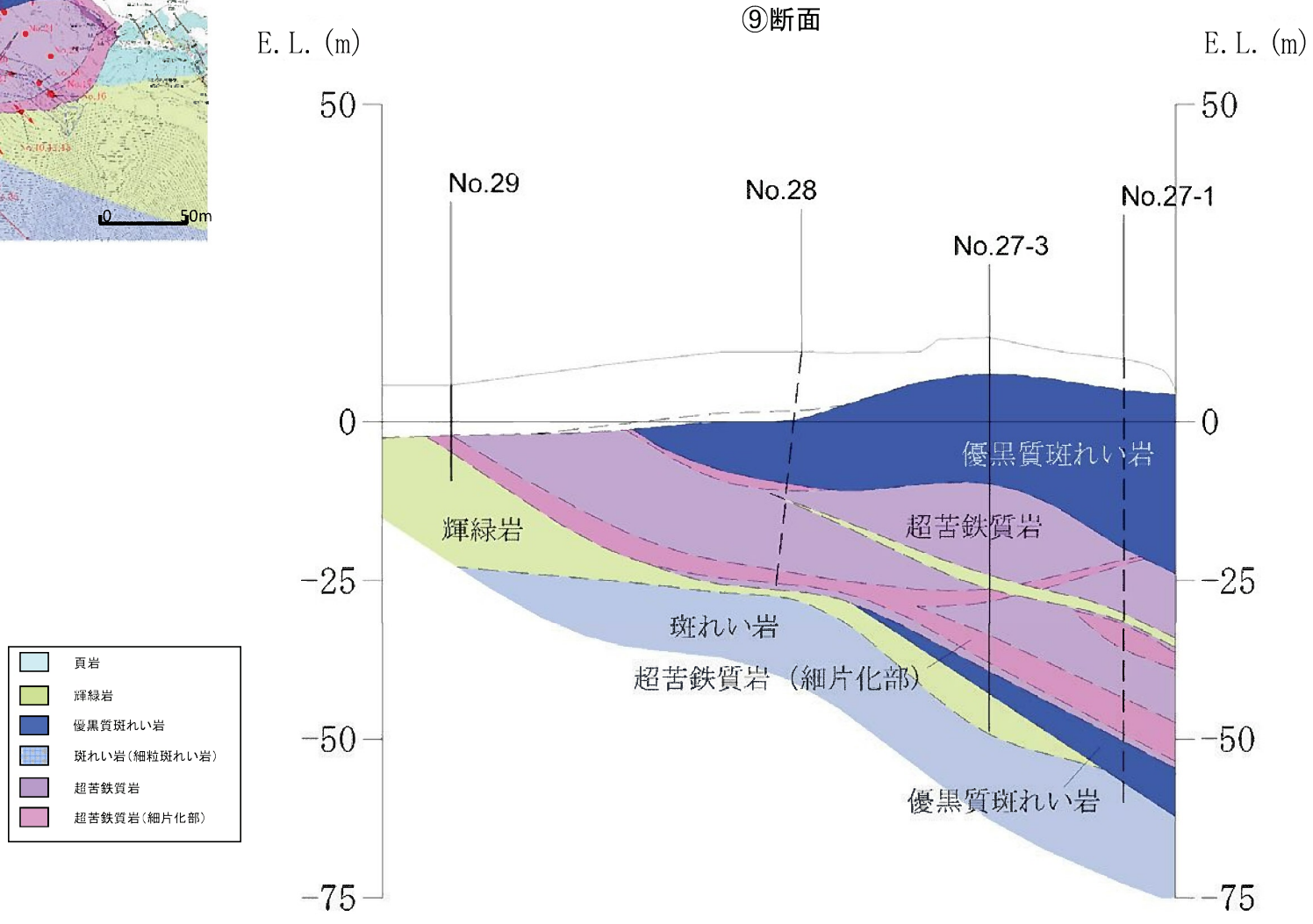




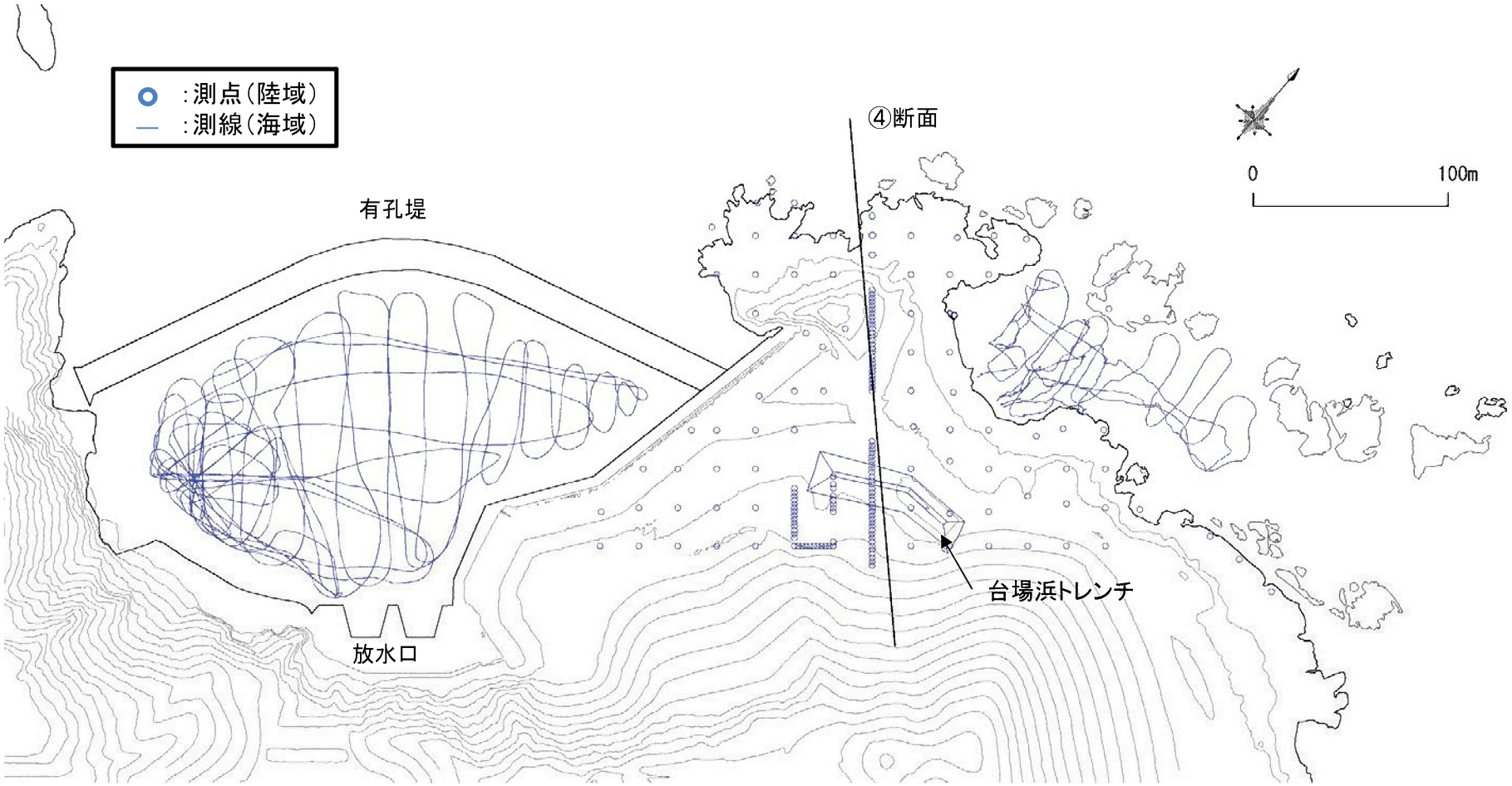


第1.2.3.3.13図(2)　台場浜付近　地質断面図（⑦断面）

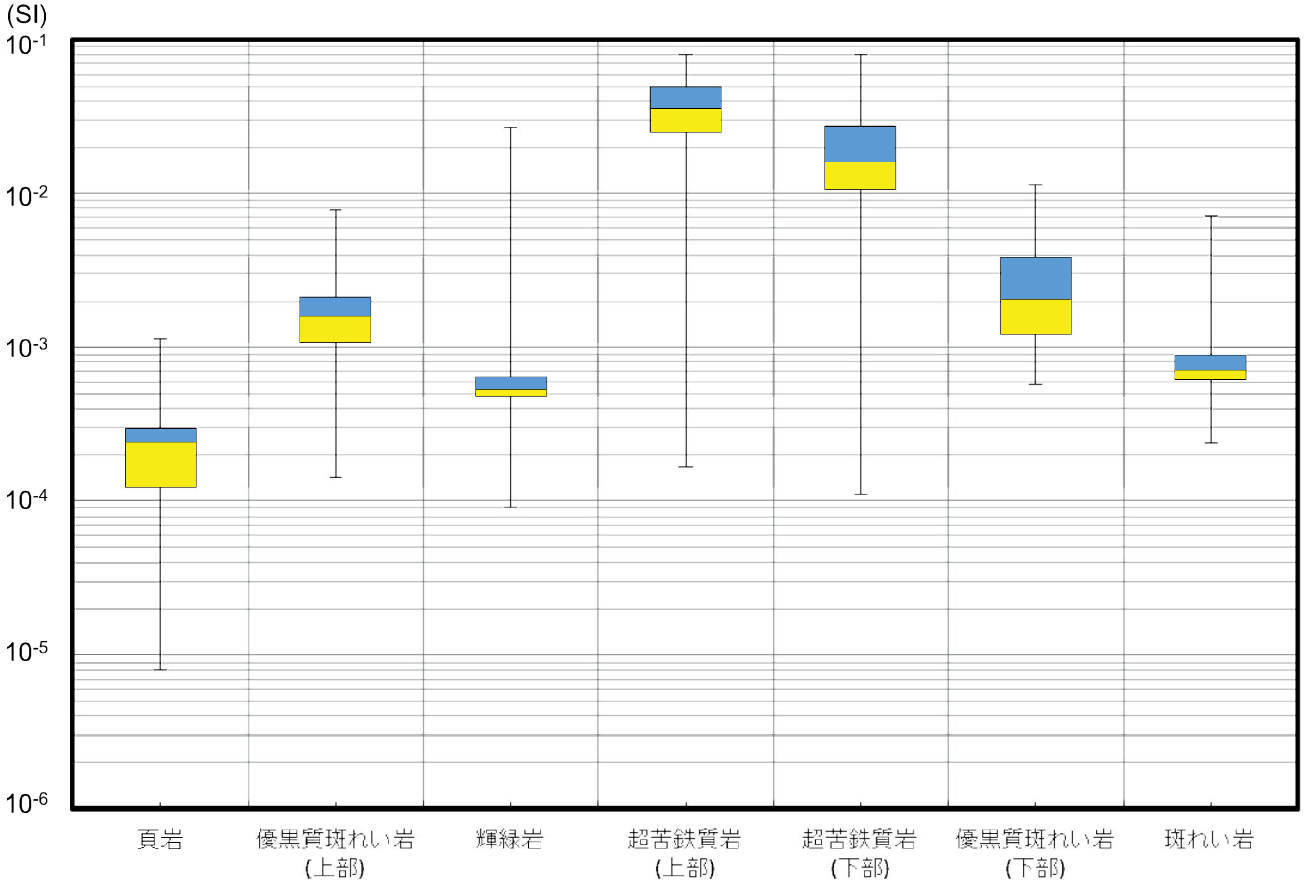




第1.2.3.3.13図(3)　台場浜付近　地質断面図（⑨断面）

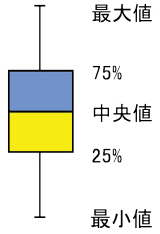


第1.2.3.3.14図　台場浜付近　磁気探査位置図



測定値数

頁岩	1897
優黒質斑れい岩（上部）	6196
輝緑岩	1162
超苦鉄質岩（上部）	2872
超苦鉄質岩（下部）	6376
優黒質斑れい岩（下部）	797
斑れい岩	2385

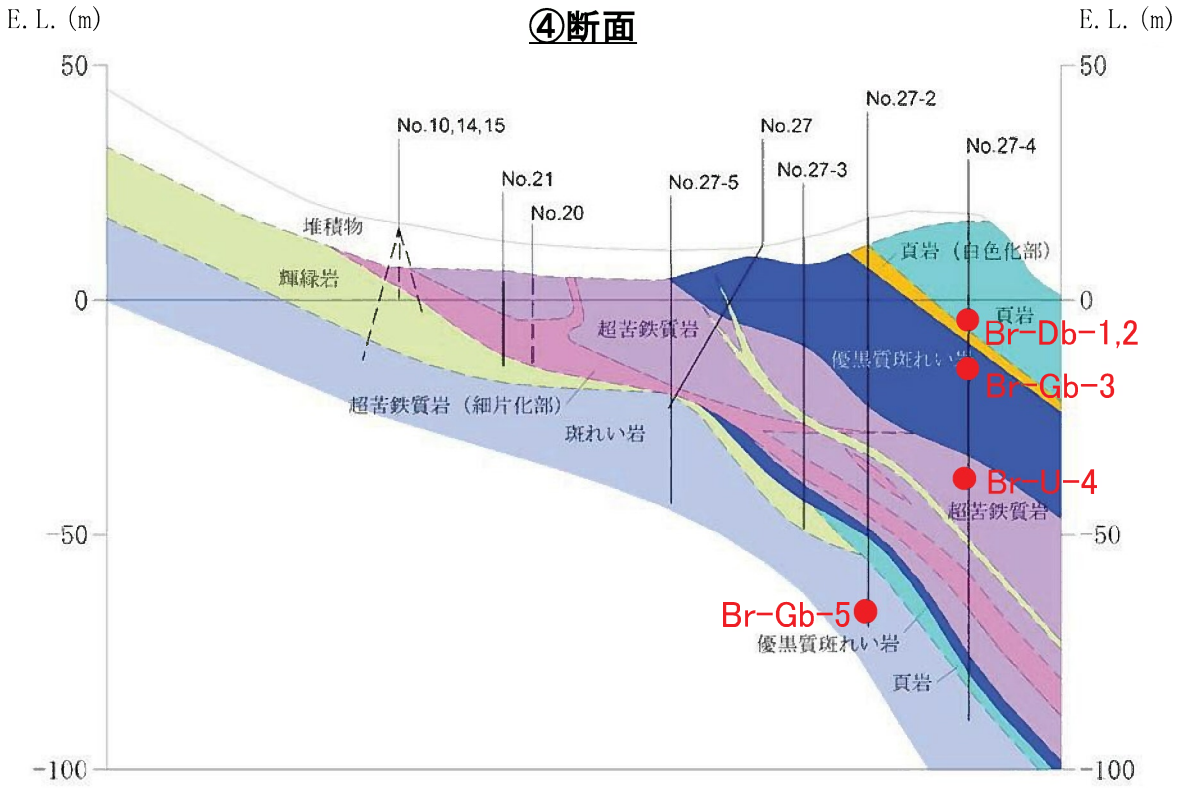


・台場浜周辺のボーリングのうち、No.27-1、No.27-2、No.27-3、No.27-4、No.27-5、No.27、No.42孔の帯磁率を用いて、地質ごとに帯磁率を取りまとめた。

・超苦鉄質岩は、挟在する輝緑岩より上部を「超苦鉄質岩（上部）」、下部を「超苦鉄質岩（下部）」と区分した。

・優黒質斑れい岩は、超苦鉄質岩の上位を「優黒質斑れい岩（上部）」、下位を「優黒質斑れい岩（下部）」とした。

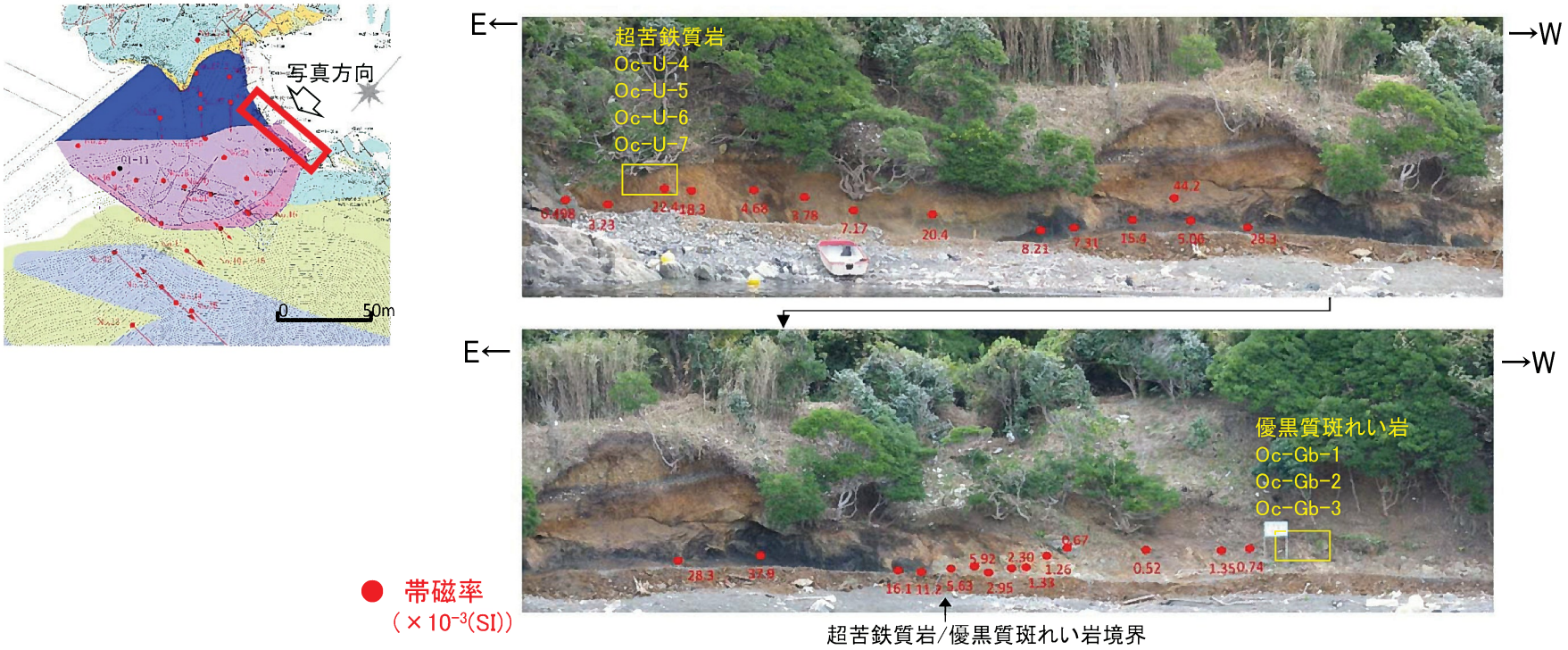
第1.2.3.3.15図　台場浜付近　帯磁率測定結果



試料番号	ボーリング孔	深度 (m)	岩種	帯磁率 (×10⁻⁵(SI))	伏角 (°)	残留磁気強度 (×10⁻³(A/m))	Q値	残留磁気の方向
Br-Db-1	No. 27-4	28. 7	輝緑岩	57	9. 8	1. 9	0. 11	正帯磁
Br-Db-2	No. 27-4	24. 4	輝緑岩	60	10. 9	3. 3	0. 18	正帯磁
Br-Gb-3	No. 27-4	29. 1	優黒質斑れい岩	161	-14. 6	9. 2	0. 19	逆帯磁
Br-U-4	No. 27-4	54. 7	超苦鉄質岩	6307	-13. 3	4465. 7	2. 29	逆帯磁
Br-Gb-5	No. 27-2	81. 6	細粒斑れい岩	114	25. 9	5. 3	0. 16	正帯磁

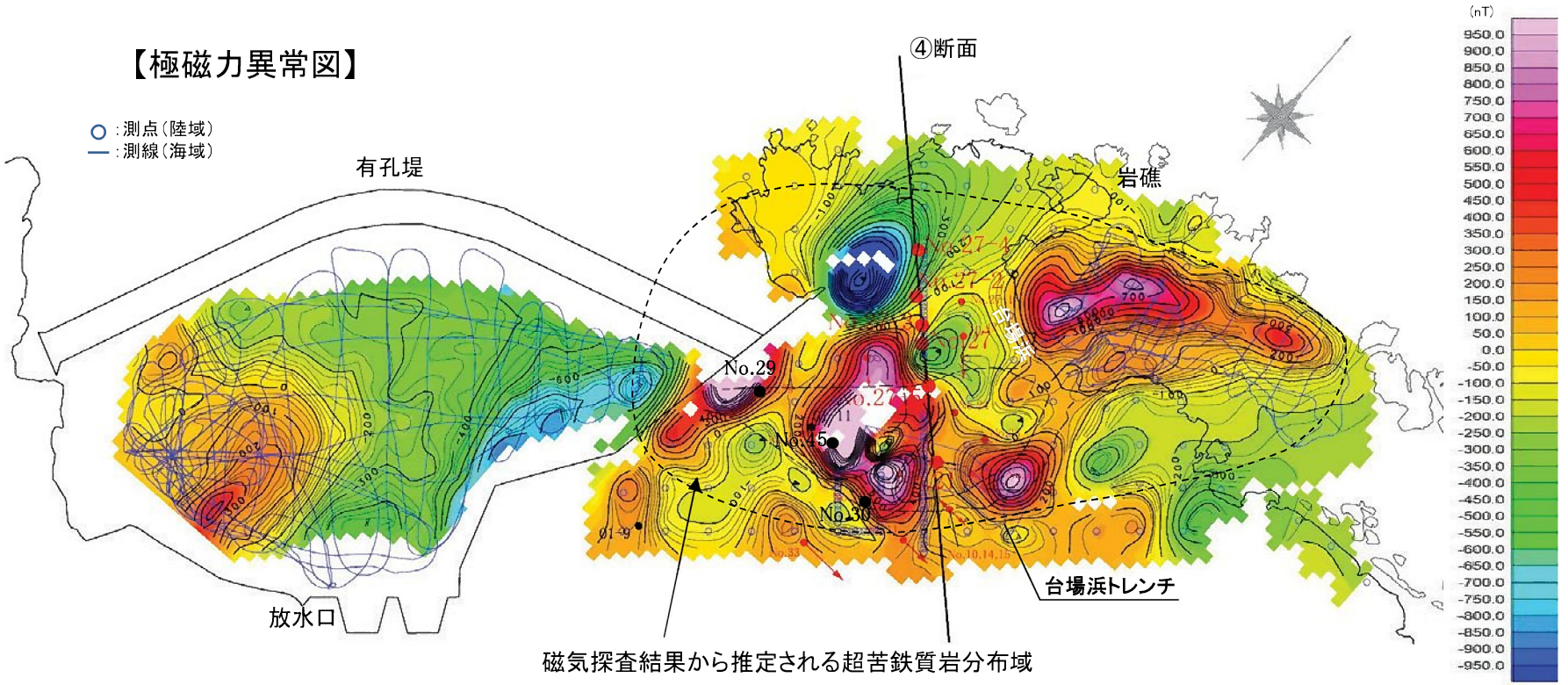
ボーリングコア試料のため方位復元が困難であり、偏角は測定不可

第1.2.3.3.16図(1)　台場浜付近　残留磁気測定結果(1)



試料番号	岩種	帯磁率 (×10⁻⁵(SI))	偏角 (°)	伏角 (°)	残留磁気強度 (×10⁻³(A/m))	Q値	残留磁気の方向
Oc-Gb-1	優黒質斑れい岩	116	-0.88	56.42	6.5	0.15	正帯磁
Oc-Gb-2	優黒質斑れい岩	114	7.49	54.34	7.3	0.17	正帯磁
Oc-Gb-3	優黒質斑れい岩	97	42.29	28.35	5.1	0.14	正帯磁
Oc-U-4	超苦鉄質岩	2083	13.99	43.19	424.7	0.53	正帯磁
Oc-U-5	超苦鉄質岩	864	0.17	64.80	177.7	0.54	正帯磁
Oc-U-6	超苦鉄質岩	943	-1.05	63.62	195.2	0.53	正帯磁
Oc-U-7	超苦鉄質岩	1201	-17.94	61.25	238.2	0.52	正帯磁

第1.2.3.3.16図(2)　台場浜付近　残留磁気測定結果(2)



・台場浜トレンチ付近及び台場浜前面の入り江において強い正の磁気異常分布域が認められる。
　また、ボーリングNo.27-2、27-3孔付近に強い負の磁気異常分布域が認められる。
・台場浜北東側の岩礁付近は磁気異常が小さい。また、放水口前面では磁気異常が小さい。
・強い磁気異常源は帯磁率及び残留磁気の大きな超苦鉄質岩と考えられる。
・台場浜海岸で採取した超苦鉄質岩の残留磁気は正帯磁であり、台場浜に面した海域の正の磁気異常分布と調和的である。
・　No.27-4孔の深度55m付近で計測した超苦鉄質岩の残留磁気は逆帯磁であり、No.27-2、27-3孔付近の負の磁気異常分布と調和的である。
・台場浜トレンチ、No.29、30、45孔等では、地表付近で超苦鉄質岩を確認しており、これらの分布は正の磁気異常分布と調和的である。
　この付近の超苦鉄質岩は正帯磁である可能性が高い。

第1.2.3.3.17図　台場浜付近　磁気探査結果（極磁力異常図）